

2014 年度後期 授業アンケート集計結果（全体的特徴）

- アンケートを実施した授業 128
- アンケート実施担当教員 専任教員 49名のうち47名（95.9%）
非常勤講師 49名のうち49名（100%）

【属性】（設問 1～設問 2）

アンケートに答えた学生の内訳は、次表の通り。

学部学科別人数・構成比					学年別人数・構成比		
学部	学科	人数	構成比	備考	学年	人数	構成比
経済学部	経済学科	586名	17.9%		1年次	1297名	39.7%
	臨床福祉コミュニティ学科	42名	1.3%	4年次生以上	2年次	1073名	32.8%
	公共政策学科	361名	11.0%	1～3年次生	3年次	603名	18.4%
経営学部	スポーツ経営学科	1649名	50.4%		4年次	264名	8.1%
	情報メディア学科	620名	18.9%		5年以上	17名	0.5%
科目履修生・交換留学生・聴講生		17名	0.5%		科目等履修生など	15名	0.5%

延べ回答者数／延べ受講者数＝回答率

3,275／5,705 ＝57.4%（前回：60.7%）

2012年度までは、担当する科目全て（実技、実習、演習を除く）を実施対象としていたが、2013年度より担当科目のうち適当と思うもの1科目以上を教員が選択して実施することとしたため、専任教員は95.9%と引き続き高い実施率であった。非常勤講師は前回の83.6%から100%と大幅向上の結果となった。

2科目以上アンケート実施した者は、そのうち専任教員12名（前回18名）と減少し、非常勤講師については9名（前回9名）と前回と同じ結果であった。

設問 3. 【科目の選択理由】

○科目により選択理由はそれぞれで毎回ほぼ同様の結果となっているが、2015年度からはWeb受講登録の際、選択しようとする科目のシラバスを必ず見なければならぬしくみに変更することとした。

設問 4. 【板書】

○板書については、「分かりやすい」と回答した割合が38.3%で、ほぼ前回どおりであった。「分かりにくい」と答えた8.4%の者は、板書について「字が小さい」、「字が汚い、丁寧でない」、「読みづらい」、「書く量が多い」、「黒板を消すタイミングが早くノートが取れない」との指摘を具体的に記述している。

また、板書ではないが、パワーポイントデータの投影について「背景で見にくい」、「スライドの切り替えが速い」などの指摘もあった。

設問 5. 【話し方】

○教員の話し方についても、「分かりやすい」が 59.0%で、ほぼ前回どおりであった。「わかりにくい」と答えた 8.5%の具体的理由としては、「マイクの音量が適切でない（大きすぎる、小さすぎる）」、「聞きとりにくい」、「しゃべるのが早い」といった記述があったが、ほとんどが毎回特定の科目・担当者に関するものである。「静かなので聞きやすい」といった記述もあり、教室の静かさとの関係も大きいようである。

設問 6. 【授業の復習】

○「授業の復習」については、「復習を全くしたことがない」が 35.1%であり、相変わらず授業の復習をして理解を深める習慣が備わっていない者が多いといえる。学科別には、スポーツ経営学科は復習をしていない割合が 42.5%であったのに対し、情報メディア学科では 27.0%、経済学科 28.3%、公共政策学科 29.0%にとどまっており、学科による差異がみられた。

一方で、「毎回復習する」(11.3%)と「ほとんど毎回復習する」(14.0%)と回答した学生は合わせて 25.3%で、ほぼ前回どおりの割合となった。

中教審の「学士課程教育の構築に向けて」(答申)に対応し、シラバスの項目として時間外学習の内容や目安時間を掲載しているが、自主的な学習が行われていない現状から、さらに具体的な課題を出す等の工夫が必要である。

設問 7. 【授業の工夫】

○理解度を深めるため、「レジュメの配布」が (50.9%)、「パワーポイント等電子化された教材の利用」(24.2%)、「ビデオ・DVD の利用」(16.3%)などが取り入れられている割合はほぼ例年どおりであり、自由記述欄には、こうした授業での工夫により、「理解が深まった」、「わかりやすい」といった回答が多く寄せられた。

一部科目で実施された「ゲスト講師による授業」では、「企業の方から生の情報が聞けて良かった」、具体的な話が聞けて内容が深まった」と概ね好評であったことに加え、ティーチングアシスタントが入る情報系科目では「先生が二人いるので気軽に質問できて良い」などと評価の声があった。

設問 8. 【授業環境】

○教室内の授業環境については、全体の約 3分の 2 (62.3%)が「常に静穏」であると回答している。「私語や携帯電話の使用が常にある」との回答が 5.2%であったが、記述部分には、「私語や途中退席は集中できないので注意して欲しい」、「私語や携帯使用の学生には厳格な処分をして欲しい」など教員の対応を求める声が多くあった。最後の設問「良かったと思われる点」でも、「教員が騒がしい学生を注意してくれた」などと「静かな授業」を評価する回答が非常に多くあることから、真面目に授業に取り組みたいと思う学生のためにも静穏な環境を整える必要がある。

設問 9. 【授業の進め方】

○学生が理解できているかを確認する工夫として、「学生との問答がある」(29.3%)、「前回の振り返り」(25.9%)、「小テストの実施」(24.2%)、「質問に対する適切な回答」(9.3%)などほぼ前回どおりの割合で実施されている実態を確認できた。逆に「ほとんど一方的だった」と答えた割合は 11.1%となったが、特にスポーツ経営学科で 14.9%と高くなっている。

設問 1 0. 【授業の難易度】

○授業の難易度は、「理解できる」(43.7%)、「十分に理解できる」(29.1%)をあわせた72.8%が授業を理解できておりほぼ前回どおりであるが、「やや難解」(22.5%)、「難解すぎて理解できない」(4.7%)など大よそ教室内の3割の者が理解できずに授業を受けているといえるため、担当者は、授業の進行にあたって学生の理解度を確認する何らかの工夫が必要であろう。

学科別には、「難解すぎて理解できない」と回答した学生の割合が、スポーツ経営学科5.7%に対し情報メディア学科2.9%、公共政策学科3.3%とこの点でも学科による差異が見られる。

設問 1 1. 【授業への意欲】

○授業に対する意欲としては、「非常に意欲的」(28.2%)、「やや意欲的」(41.6%)で概ね7割は意欲的に臨んでいることがわかるが、自ら「意欲的でない」と正直に答える学生も4.7%おり、授業選択の理由との関連があるのかなどさらに追究するべきかもしれない。

設問 1 2. 【授業満足度】

○授業の満足度は、「満足も不満もない」が25.9%で、「まあまあ満足」(37.0%)、「非常に満足」(31.8%)をあわせた「概ね満足」者が約3人に2人、「やや不満」(3.3%)、「非常に不満」(1.8%)を合わせた「不満」者が5.1%の結果となった。

学科別には、公共政策学科と情報メディア学科で「概ね満足者」が75.7%と4人に3人が満足感を得ているのに対し、スポーツ経営学科では64.1%にとどまっているため、満足感を決める要因が何であるかを探る設問が次回必要であるかもしれない。

設問 1 3. 【良かった点、改善してほしい点 (抜粋)】

<良かった点>

- ・毎回、小テストを行うので復習にもなった
- ・生徒からの意見を積極的に出させていたのが良かった
- ・重要なことを2回繰り返して言ってくれた
- ・グループで話し合うところが、とても良かった
- ・留学生と交流できてよかった
- ・他の人の意見と自分を比較することができた
- ・DVDなどの映像を使った授業が楽しく学べた
- ・静かな授業で、とても集中しやすい環境だった
- ・分からないとき、丁寧に説明してくれた
- ・小論文を丁寧に直してくれる

<改善してほしい点>

- ・スクリーンが反射して見づらい
- ・出席を厳しくしてほしい
- ・プリントの枚数が多い
- ・先生が遅刻をしてくる 時間どおり始めて欲しい
- ・授業が一方的でわかりにくい
- ・教科書を購入して読むだけで良いと思う
- ・学生に答えさせるなど理解度を確認して欲しい
- ・授業の進行が早すぎる ゆっくり進めて欲しい
- ・理解しやすいが、ゆっくり過ぎて退屈を感じる